

2016年度 自己点検・評価【社会学部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年2月23日

責任者	社会学部長	作成部局	社会学部
-----	-------	------	------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

建学の精神にもとづいた人格形成を促すとともに、社会・文化・人間への深い関心を育成し、生涯にわたる主体的・能動的な学習態度を育成す

(狙い内容)

正課教育内外を通して、“Mastery for Service”の精神について触れる機会を増やすとともに、社会・文化・人間への深い関心を刺激する知的・実践的環境を整備する。さらに、4年間を通じた演習教育と、「共同学習室」を中心にした「ピア・エデュケーション」の強力な推進によって、生涯にわたる主体的・能動的な学習態度の育成に努める。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

“Mastery for Service”の精神について、授業、チャペル、学部独自の「学生交流プロジェクト」(ピア・サポート)など、正課教育内外を通して、多くの学生が触れる機会をもつ。また、社会学を中心とした正課内教育とともに、ボランティア活動などの実践を通して、社会・文化・人間への深い関心を刺激する知的・実践的環境を整備する。さらに、4年間を通じた演習教育や、「共同学習室」を通じたさまざまな「ピア・エデュケーション」プログラムに多くの学生が参加することによって、生涯にわたる主体的・能動的な学習態度を育成する条件が整う。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	この教育目標は、その達成度を直接的かつ数量的に測定できる種類のものではない。したがってこの教育目標の達成度を評価する指標は、むしろこの教育目標を達成するための、(正課教育内外を通して)さまざまな活動の向上や環境の整備(下記の行動計画)を示す指標によって、代替すべきものである。	評価尺度	A: B: C: D:	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)									有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>						
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績>	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>						

【2016年度の進捗状況について】 ←

今年度も検討したが、この教育研究目標の達成度を評価する指標は、行動計画に示す指標によって、代替すべきものであるという結論に至った。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度 of 取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?	→	<input checked="" type="radio"/> はい	・	<input type="radio"/> いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>				
①理由:				
②今後必要な取組み:				

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

<https://www.facebook.com/kgsociokvodo>
<https://twitter.com/kgsociokvodo>
http://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/news/2016/news_20160804_010627.html
http://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/s_sociology_004919.html

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 評価尺度の設定が望まれます。(E)
- ・ 記述そのものは抽象的ですが、十分にその内容は推察できるものになっています。(H)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

幅広くかつ系統的な社会学的知識・思考・技能にもとづいた、社会で求められる「社会学的想像力」を育成する。

(狙い内容)

2016年度施行の新カリキュラムは、これまでのカリキュラムが重視してきた幅広い学習内容に加えて、系統的な学習と方法(メソッド)を重視して、6つの「専攻分野」(「現代社会学」、「データ社会学」、「フィールド社会学」、「フィールド文化学」、「メディア・コミュニケーション学」、「社会心理学」)を設置する。これによって、より焦点の定まった学習を可能にするとともに、方法(メソッド)にもとづいた学習を実現し、学生が卒業後に直面するさまざまな問題に対して、一貫した方法的態度にもとづいて対応することができる「社会学的想像力」を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

2020年度には、新カリキュラムが完成年度を迎える。学生は、幅広い学習内容に加えて、系統的で方法(メソッド)を重視した学習によって、社会学・社会心理学的方法(メソッド)ばかりでなく、人類学や民俗学など隣接諸科学の方法(メソッド)も含めて、それぞれの「専攻分野」で学習することが可能になる。これによってそれぞれの「専攻分野」で、より焦点の定まった学習、方法(メソッド)にもとづいた学習が実現され、さまざまな問題に対して、一貫した方法的態度にもとづいて対応することができる「社会学的想像力」の育成が進む。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	専攻分野と卒業論文の適合率	評価尺度	A : 80%以上 B : 70%以上80%未満 C : 60%以上70%未満 D : 60%未満	変更有無 有・無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C (60%)	C (60%)	C (65%)	C (65%)	B (70%)	B (70%)	A (80%)	有・無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 60%		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 60%					

【2016年度の進捗状況について】←

2016年度末時点の見込値を記載している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:
- ②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(B)
- ・ 2016年度の見込みは、2015年度と同様に適合率は「60%」とのことですが、今後も積極的な取組みが望まれます。(C)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 6つの「専攻分野」を設置するなど、適切な内容の設定を行っている評価できます。(H)
- ・ 専攻分野と卒業論文が適合しないことの要因分析をすることが期待されます。(I)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

フィールドワークを含む社会調査についての基礎的な知識と技能にもとづいた、社会で求められる「社会調査の実践力」を育成する。

(狙い内容)

2016年度施行の新カリキュラムは、社会調査関連科目の段階性を明確にするとともに、新たに「リサーチ・メソッド科目」を導入し、さらに「データ社会学専攻分野」「フィールド社会学専攻分野」「フィールド文化学専攻分野」を設置した。これによって、これまで以上に、フィールドワークを含む社会調査についての知識と技能にもとづいた、社会で求められる「社会調査の実践力」を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

2020年度には、新カリキュラムが完成年度を迎える。学生は、段階的・系統的に社会調査関連科目を履修し、さらに所属する「専攻分野」で求められる「リサーチ・メソッド科目」を履修しながら、とくに「データ社会学」「フィールド社会学」「フィールド文化学」の各「専攻分野」に所属する学生は、フィールドワークを含む社会調査の知識と技能を重点的に学習することによって、これまで以上に、フィールドワークを含む社会調査についての知識と技能にもとづいた、社会で求められる「社会調査の実践力」を育成することを目指す。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	卒業論文全体に占める、フィールドワークを含む社会調査にもとづいた論文の比率 「社会調査士」資格の取得者数	評価尺度 A: 40%以上/35名以上 B: 30%以上40%未満/30名以上35名未満 C: 20%以上30%未満/20名以上30名未満 D: 20%未満/20名未満	変更有無 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	<変更時記入欄> 全実習科目履修者に対するフィールドワークを行う社会調査実習履修者数の比率		

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C (20%/20名)	C (20%/20名)	C (20%/20名)	C (25%/25名)	B (30%/30名)	B (35%/30名)	A (40%/35名)	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> B	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A	A	A	A	A	
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 37%		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 42%	40%	40%	40%	40%	

【2016年度の進捗状況について】 ←

2016年度末時点の見込値を記載している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価指標を一本化するため

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:
- ②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(B)
- ・ 改善が進んでおり、評価できます。(D)
- ・ 2021年の目指す姿(目標)実現のために掲げられた目標値がすでに「A」に達していますので、より高い次元を目指す新たな目標や目標値の設定が期待されます。
- ・ 社会学部の特徴を捉えた、意欲的な内容の目標設定で、スケジュール設定も適切であると考えます。(H)
- ・ 目標値の設定をもう少し高くすることが望まれます。(I)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)

グローバル化した現代社会で活躍できる人材を育成する。

(狙い内容)

確かな言語能力(とくに英語力)にもとづいて、異なる地域や文化を体験するとともに、グローバル化した現代社会の現状や問題点を社会的に理解することによって、多様化する現代社会で活躍できる人材を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

多くの学生が、確かな言語能力(とくに英語力)を身につけ、海外への派遣(交換留学、中期留学、外国語研修等)の経験や「フュージョン(融合)プログラム」参加によって、異なる地域や文化を体験するとともに、グローバル化した現代社会の現状や問題点を社会的に理解することによって、多様化する現代社会で活躍できる人材を育成することを目指す。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	協定に基づく海外への派遣学生数とフュージョン(融合)プログラム参加学生数の総数	評価尺度	A: 100名以上 B: 85名以上100名未満 C: 70名以上85名未満 D: 70名未満	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	有・無

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		C (71名)	C (75名)	C (80名)	B (85名)	B (90名)	B (95名)	A (100名)	有・無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 81名		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 81名					

【2016年度の進捗状況について】 ←

2016年度末時点の見込値を記載している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ (は) ・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:
- ②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果記入欄>

- ・ 目標自体の進捗は順調であるようですが、今後の取組みの推進に向けて着実な実行が望まれます。(C)
- ・ おおむね順調に進展しています。(D)
- ・ フュージョンプログラムへの参加を促進することは高く評価できます。また内容も意欲的であると考えられます。(H)
- ・ 海外派遣学生数、融合プログラム参加学生数は順調に推移しています。(I)